

だいせつぎんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

東川町のスケール

12月の始め、東川と旭川の小学生を対象に旭岳温泉街で雪遊びを実施しました。雪の降り始めの市街と違い、旭岳温泉街フワフワの雪がたっぷりと積もっていました。雪合戦も、かまくらも、そり遊びも、どんな雪遊びもできる雪の量に、子どもたちは大喜びでした。約1000mの標高差でまるで環境が違っていることを、一足早い雪遊びを通して体験することができました。

東川町市街の標高は約200m。旭岳温泉街は約1100m。そして、旭岳山頂は2291m。東川では1000mという標高差を温泉への少しの移動で体験できます。旭岳を見上げるだけで2000mという標高差を実感できます。

学校では10cmや100cmの概念は正規を使うことで身につけることができます。では、1000mという概念はどのようにして身につけることができるのでしょうか。算数なら「0の数」かもしれません。社会なら地図を広

旭岳温泉街にて。市街との雪のちがいを実感します。



げた「距離」かもしれません。

自然体験活動では、1000m、2000mという「高さ」の概念と、その標高差によって生じる環境の違いを、体験を通して同時に学ぶことができます。たとえば雪の量が増えること、樹木の種類が変わること、お菓子の袋がパンパンになること。本の中での知識を学ぶことができます。

春休みには小学生向けの最後の雪遊びを予定しています。営業を終えたキャンモア・スキー場を出発し、旭岳ロープウェイを利用して、たくさんの雪を残す旭岳姿見の池まで出掛けます。東川町と自然のスケールの大きさを子どもたちが感じる機会となることを願っています。

NPO法人ねおす・大雪山自然学校 木村 恵巳

俳句

立春の窓辺にふたつ湯呑かな
 ニン月の川底の雲動かざる
 新巻や橐荷の中のひとつなり
 立春の句会に句友二人増え
 塩鮭の茶漬けさらさら恙なく
 歌留多会余韻にたがう札も跳び
 立春やまるまる太った猫二匹
 積む雪の無音や妻の針仕事
 立春や友の絵手紙はなやぎて
 塩鮭の旨味さわ立つ塩むすび
 大寒に老いて縮む背なお縮む
 真夜中の除雪車の音遠くなり
 垂り雪小さき過去も落としゆく
 新巻やなご海鳴りの聞こえくる
 生いさきは旨き塩鮭命継ぐ
 「塩分のとりすぎ注意」に塩鮭沈黙
 春來たり衣一枚脱ぎ捨てて

若田 郁
 秋山 深雪
 長谷川 きみゑ
 小林 ろぼ
 高橋 公花
 杉山 ひろのり
 保科 なほ
 徳光 吐苦
 杉山 りつ
 山口 佐知子
 横田 則子
 若田 久
 高瀬 潤
 石澤 清宏
 澤田 久美子
 松山 蓉子
 三島 智

